

第7回海洋安全システム科学セミナーのご案内

以下の通り、セミナーを開催します。ご関心のある方は、大学の内外を問わず、ご参加ください。
なお、セミナー後に懇談の場を持ちたいと思います。

日時： 2019年10月30日(水) 16時から17時

場所： 神戸大学深江キャンパス 総合学術交流棟1F 梅木ホール
658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1

演題： マリン・ハザード研究 ～長期出張中のいくつかの仕事～

講師： 林 美鶴 先生

講演要旨

男女共同参画推進室が中心となり、文部科学省による科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」が採択された。この枠組みにより2019年3月から一年間、タイ王国ブラパ大学(BUU)に滞在した。受け入れ教員は、理学部アクアティック・サイエンス学科のProf. Anukul Buranaprathepratである。

セミナー時点で8カ月が経過した。この間いくつか仕事を行ったので、そのうち3つを紹介する。

1. ブラパ大学(タイ王国)逗留記(日本航海学会誌Navigation に寄稿)

ブラパ大学、メインキャンパスがある街バンセーン、海事科学研究科がタイで唯一交流協定を締結しているロジスティックス学部とタイの船員養成、などについて紹介した。

2. Study of Tsunami Marine Hazards on Marine Environment(ブラパ大学理学部卒業研究発表会での講演、及び男女共同参画推進室ユネスコチェア・サマープログラムでの講義)

南海トラフ地震による津波が引き起こす大阪湾の海底堆積物の擾乱、及び、これによる重金属の海中拡散に関して、数値モデルによる予測研究の結果を紹介した。サマープログラムでは、ユネスコチェアのテーマ「ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策」と自然環境との関係性についても、SDGs の観点から説明した。

3. 神戸大学深江キャンパスで観測された2018年台風21号(T1821, Jebi)による高潮(日本航海学会で講演)

深江における高潮災害を記録として残すため、矢野船長が撮影した高潮・高波の動画や写真、被災状況の写真や測地データ、海洋・気象研究室が常時計測している潮位や港外水位などのデータを紹介した。

「マリン・ハザード」とは、海洋で起こる災害や環境擾乱などの危険事象である。深江キャンパスでのマリン・ハザード研究は、1997年に設立されたMarHazard研究会に遡る。研究会はオイル・スピルや津波避難など海難時の緊急対応から始まったが、マリン・ハザードの原因や種類、ハザードが起こす災害の種類や波及範囲は多様化している。マリン・ハザードをSDGs-DRRで連環し、文理融合の研究を展開することが望まれる。